

2009年3月期 第1四半期決算 FAQ

Q1: 第1四半期（4－6月期）の業績は期初想定と比べてどうであったのか？

A1: 第1四半期の半導体売上高につきましては、前四半期（1－3月期）比約2%増の1,592億円となりました。自動車向け半導体やテレビやパソコン向けの大型ドライバICの売上が好調であった一方、汎用製品などが想定を若干下回り、ほぼ期初の想定どおりの結果となりました。

営業損益につきましては17億円の利益で、4四半期連続で黒字を確保いたしました。前四半期と比べて為替が円高となったことによるマイナス要因はあったものの、工場稼働率の改善や減価償却費の減少などにより、15億円の増益となりました。

Q2: 第2四半期（7－9月期）の業績見通しはどうか？

A2: 第2四半期の半導体売上高につきましては、第1四半期比で若干の増収を見込んでおります。原油高騰の影響などにより自動車業界が厳しい状況となっていることから、自動車向け半導体については減収を見込むものの、主にブルーレイディスク向け半導体が好調なことなどにより、コンピュータおよび周辺機器分野、民生用電子機器分野については、堅調な売上増を見込んでおります。

営業損益につきましては、第1四半期比で売上高が増加する見込みであることに加えて、業績予想の想定より為替も円安傾向にあることから、第1四半期の営業利益（17億円）とあわせ、期初想定 of 営業利益目標である半期（4－9月期）30億円を上回る業績となるよう事業運営をしてまいります。

Q3: 半導体市場は厳しさを増しているようであるが、下期の業績見通しおよび年間の当期純利益の黒字化目標に変更はないか？

A3: 下期の見通しにつきましては、足元において北米の自動車関連、ディスクリットなどの汎用製品が想定以上に厳しさを増してきていることから、期初想定よりも厳しい事業環境になってきていると認識しております。市場動向、顧客の所要など下期の事業環境や受注状況を慎重に見極めていきたいと考えております。

既述のように下期の業績に厳しさが増しているものの、今年度の大きな経営目標であります当期純利益の黒字化については変更ありません。

Q4: 今年度の設備投資額は期初計画で600億円であったが、変更はないか？また、第1四半期の稼働率の状況、および今後の見込みはどのくらいか？

Q4: 今年度の設備投資額については、約600億円で期初計画から変更ありません。稼働率につきましては、第1四半期は平均で約89%でした。前期に比べて約3%ポイントの改善となっております。第2四半期につきましても、平均で約90%の水準となる見込みです。

以上